

研究科長のことば

お茶の水女子大学大学院人間文化研究科長 徳丸 吉彦

平成11（1999）年春、お茶の水女子大学の人間文化研究科の博士後期課程に新しい専攻が誕生しました。それが、「国際日本学」専攻です。本学のさまざまな部門で日本に関する研究をしていた教官を、新しいユニットに統合したのです。その目的は、分野の異なる日本研究者のヨコのつながりを強化することと、ユニットを作ることで、学内と学外の連携を強化することにあります。まだ予算措置はされていませんが、この専攻のそれぞれの講座には、外国人客員教授が一人ずつ加わることになっています。この度のシンポジウムにご参加下さった、アン・ウォルソール、ヘレン・マリOTT、畑佐一味の3人の先生が、予算がつき次第、外国人客員教授として教育と研究に当たって下さることになっています。

日本学の研究も、国際日本学専攻の中だけで行えるわけではありません。さいわい、他の専攻にも、関連する研究に従事している教官が多く在籍しています。例えば、日本の食文化を主題にして研究を行うのであれば、比較社会文化学専攻や人間環境科学専攻が国際日本学専攻に協力してくれるでしょう。このように、本学の規模の小ささを活用して、学内でもさまざまな研究を行う可能性があるのです。

人間文化研究科全体も、これからは外の世界との関係を強化しようとしています。院生と教官の研究成果の発表手段として、学内レフェリーによる『人間文化研究年報』に加えて、学外の専門家による審査を条件にした『人間文化研究論叢』を新たに発刊しましたのも、この考え方に基づくものです。

この度のシンポジウムも、こうした考えを実行に移したものです。これが刺激になって、新しい研究と研究者間の新しいネットワークが生まれることを願っています。

最後になりましたが、今回のシンポジウムの開催のために、協賛して下さった国際交流基金、実行のために助成をして下さった笹川平和財団とサントリー音楽財団に厚く御礼申し上げます。